

2010年度

科目名	教育相談の理論と実際		
担当教員	小西 宏幸		
配当	文 3・人間3	コード	21160
開期	前期	講時	火曜日1限
		単位数	2
授業テーマ	心理カウセリングや心理療法の知識と技法を教育相談場面でいかに活用するかについて		
目的と概要	教育場面では、心理学のさまざまな知見を利用することが有効になります。進路指導や生徒指導、保護者やスクール・カウンセラーとの連携などについて学習します。		
成績評価法	試験(70%)＋平常点(30%) 平常点は、質疑応答、講義への主体的な参加・積極性などを加味します。筆記試験の代わりにレポート提出を求めることもあります。		
テキスト	大芦 治「教育相談・学校精神保健の基礎知識(第2版)」ナカニシヤ出版		
参考書	宮田敬一「学校におけるブリーフ・セラピー」金剛出版 吉川 悟「システム論からみた学校臨床」金剛出版 マーフィ・ダンカン他「学校で役立つブリーフ・セラピー」金剛出版 アルヴィン「学校で役立つDSMIV」誠信書房 など、その都度紹介します。		
履修に当たっての注意・助言	基本的に、教職資格・免許に関する科目ですので、受講生の積極的な関わりを期待します。卒業するための講義ではありません。		
講義計画			
第1回 教育場面におけるカウセリング心理学の位置づけ 第2回 相談とカウセリング 第3回 指導とカウセリングの異同 第4回 コンサルテーション・リエゾンとは？ 第5回 カウセリングと心理療法の異同 第6回 方法論：応用行動分析 第7回 方法論：認知行動療法 第8回 方法論：SST 第9回 方法論：短期療法（1） 第10回 方法論：短期療法（2） 第11回 対象：不登校と非行（1） 第12回 対象：不登校と非行（2） 第13回 対象：発達障害（1） 第14回 対象：発達障害（2） 第15回 まとめ			